

海の日を前に「親子で体験！着衣泳」を開催

7月16日(土)、大阪大谷大学さまのご協力のもと、親子8組18名と学生9名にご参加いただき、「親子で体験！着衣泳」を開催しました。

「着衣泳」とは・・・？決して衣服を着たまま泳げるようになるという意味ではありません。

水の事故の大半は、衣服やくつを身に着けたまま、海や川、用水路などに落ちるといった事故です。日本赤十字社の着衣泳は「服を着たまま水の中に落ちた時にどのように対処したらいいか」を学んでいただくことです！

そして、今回はスペシャルゲストとして吉本興業所属のお笑い芸人 ミサイルマンの西代さんにご参加いただきました！

西代さんはテレビの企画でも素潜りをするなど水泳が得意で、日頃から子供たちを対象とした水泳クリニックを開催するなど水泳指導にも積極的です。

そんな西代さんと一緒にまずは講義で水の事故の現状をしっかりと把握。「大阪府は水難事故の発生件数が日本で一番多い都道府県です。」と指導員から説明があると、参加者からは「意外だった」という声があがりました。(西代さんは知っていたみたいですね・・・さすが！)

そして、口と鼻を覆うだけの水があると人間は溺れるということを認識し、身のまわりには危険な場所がたくさんあることを特に子供たちに協調されました。

また、水遊びをする際の注意事項などを確認し、自分自身にも起こり得ることだということを十分に理解していただきました。



その後、プールへ移動して実際に体験です！この日は快晴で、絶好のプール日和でした。

衣服を着た状態で水中に落ちたときに大切なことはあわてずに「浮く」ことです！

写真のように背中から浮き身を取り、呼吸を確保する姿勢をとります。



さらに、うまく浮くために重要なことは「姿勢」です。

怖がって体に力が入ったり、頭や顔を水中からあげようとする、腰が曲がり沈んでしまいます。そうならないようにするために体を一直線にしてバランスをとります。

長時間浮くことが難しい場合は、身近にあるものを使って浮き具にすることもできます。ペットボトル、ビニール袋やクーラーボックスなども浮き具になるんです。写真(左)のように、子どもでは 500ml のペットボトルでも十分浮きました！



写真(右)はクーラーボックスを使って何人の子供たちが浮くことができるかに挑戦！

優しい子どもたちは西代さんにもクーラーボックスにつかまって浮いてもらおうと手を伸ばします！

最後にはもう友情が芽生えていました！笑

最後に、西代さんから水は怖いこともあるけど、いのちを守る方法を学んだので、これからのシーズンに水遊びを十分に楽しんでほしいとメッセージが送られました。

参加者からは「楽しかった」「浮き身をとるのは難しかった」「いざという時にはできそう」などの感想をいただき、無事講習終了となりました。

日本赤十字社では、水の事故から大切ないのちを守るため、水上安全法講習のなかで「着衣泳」を広く普及しています。

地域や学校に指導員を派遣して講習を開催していますので、水の事故が増えるこのシーズンにぜひ一度体験してみませんか？

指導員を派遣して講習を開催する場合の詳細は <https://www.osaka.jrc.or.jp/data/news/00000171-1.pdf> をご覧ください！

また、今回会場をご提供いただきました大阪大谷大学さまにも感謝申し上げます。

学校法人大谷学園 大阪大谷大学 <http://www.osaka-ohtani.ac.jp/>